

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

- 支部学術大会報告 ..... 1
- 令和4年度認定医・専門医筆記試験 ..... 6
- 第7回補綴歯科臨床研鑽会「プロゾ'22」の報告 ..... 7
- 令和4年度専門医研修会が開催されました ..... 8
- 受賞報告 ..... 9
- インド補綴歯科学会50周年記念学術大会参加報告 ..... 10

## 支部学術大会報告

### ● 東北・北海道支部学術大会

令和4年度東北・北海道支部学術大会は10月16日、Web上で開催されました。補綴歯学と老年歯学に跨る領域にテーマを設け、特別講演では日本歯科大学の菊谷 武先生に「食べるを支える、食べられないを支えるー歯科訪問診療を通じたかかわり」と題したご講演を、教育講演では東北大学の洪光先生に「義歯ケアにおける義歯安定剤の使用」のお題のお話をいただきました。シンポジウムはテーマに「要介護高齢者における補綴診療の目標設定を考える」を掲げ、奥羽大学の鈴木史彦先生、北海道医療大学の川西克弥先生、そして本会準備委員長の東北大学、山口哲史先生にご登壇いただきました。これらすべてのご講演には、生活を支える医療としての補綴の側面がさまざまな形で提示されており、そのことを印象深く記憶いたします。一般口演4題、e-poster 9題と多くの演題をご登録いただき、専門医ケースプレゼンテーションでは4名の会員の充実した臨床実績を拝聴しました。オンデマンド動画配信形式の市民フォーラムは「正しく知ろう、保険でできる白い奥歯」をテーマに、奥羽大学の羽鳥弘毅先生と東北大学の原田章生先生に、市民目線を意識したご講演いただきました。7月半ば、第7波

の感染拡大を目前に現地開催からWeb開催に変更いたしました。配信機材のトラブルで皆様に多大のご迷惑をおかけいたしました。参加者各位の多大のご支援あってどうにか充実した会となりましたこと、お詫び方々衷心より御礼を申し上げます。

(東北大 服部佳功)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_825.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_825.pdf)



専門医ケースプレゼンテーション

### ● 関越支部学術大会

令和 4 年度関越支部学術大会が令和 4 年 11 月 13 日 (日) に開催されました。本来昨年度は新潟大学歯学部の小野高裕教授を大会長とした栃木県での開催であったところ、ハイブリッド形式新潟開催となりました。そこで、今年度は栃木県にて完全対面形式での開催を模索しておりましたが、コロナ蔓延の終息に見通しがなく、止む無くリアルタイム完全オンライン形式での開催となりました。

午前中の一般口演では 6 題の発表があり、同じくオンラインで行われた専門医ケースプレゼンテーションでは 4 名の先生方が審査を受けました。昼過ぎから開催された総会をもって学術大会は無事終了し、その後に生涯学習公開セミナーが開催されました。小野高裕先生のコーディネートで「治療計画と臨床手技を再考する～デンタルインプラントと全部床義歯について～」と題して、新潟大学の魚島が「デンタルインプラントの補綴学的意義」、日本歯科大学新潟生命歯学部の水橋 史教授が「全部床義歯の咬合採得を考える」のタイトルで講演されました。午前中の学術大会参加者は 70 余名、午後の生涯学習公開セミナーには 140 名近くの参加者があり、多くの歯科医師会会員のご参

加をいただいたことは、オンライン開催のメリットであったと思います。

最後に本会開催にあたり、ご後援いただいた栃木県歯科医師会、群馬県歯科医師会、新潟県歯科医師会の皆様、並びに当日の運営にご尽力いただいた多くの皆様に深謝いたします。どうも有難うございました。  
(新潟大 魚島勝美)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_799.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_799.pdf)



生涯学習公開セミナーでの討論

### ● 東関東支部学術大会

令和 4 年度東関東支部学術大会が、令和 5 年 3 月 12 日 (日) に日本大学松戸歯学部で開催されました。当初は水戸市で行われる茨城県歯科医学会と合同開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場の関係から、残念ながら別会場での開催となりました。一般口演については 8 名の発表があり、現地とオンラインのハイブリッドで質疑応答が行われました。また、専門医ケースプレゼンテーションは対面形式で開催され、旧制度最後の申請機会でもあり、11 名の会員が審査を受けられました。支部学術大会終了後に、「アナログとデジタル共存時代の歯科生体材料を再考する」というテーマで生涯学習公開セミナーを開催し、岡本和彦先生に座長を務めていただき、「アナログからデジタルへ デンタルマテリ

アルの現状と展望」について谷本安浩先生 (日大松戸) に、「アナログとデジタルの共存 デジタル技術を援用した補綴臨床の現状と展望」について新谷明一先生 (日歯大) にご講演をいただきました。ハイブリッド開催の長所を生かし、登録者数は 145 名を数えました。一般口演では活発な討論が行われ充実した支部学術大会となりましたのも、ご参加、ご支援、ご協力をいただきました皆様のおかげでございます。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

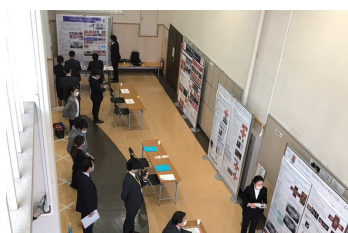
(日大松戸 河相安彦)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_861.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_861.pdf)



一般口演 Zoom



ケースプレゼンテーション



会場

### ●東京支部学術大会

令和4年度東京支部学術大会が上田貴之大会長（東歯大）のもと、令和4年12月18日（日）に東京歯科大学水道橋校舎新館で現地開催されました。

一般口演21題、専門医ケースプレゼンテーション14題が発表され、活発な質疑応答が行われました。一般口演においては、東京支部各大学選考委員の投票により3題の優秀研究発表賞が選出されました。

お昼には東京支部総会が開催され、その後の特別講演では東京歯科大学臨床教授 宮地建夫先生より「欠損歯列をどう見るようになったか」と題したご講演をいただきました。

学術大会終了後には「義歯臨床における機能と形態」をテーマにした生涯学習公開セミナーが行われ、東京歯科大学解剖学講座 阿部伸一先生より「無歯顎治療のための機能解剖学：未固定標本を用いた動画による理解」と題したご講演を、また日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座 河相安彦先生より「有床義歯の機能的印象採得の基本と超高齢社会の有床義歯のあり方を再考する」と題したご講演をいただきました。日常臨床ですぐに役立つ知識について、有意義な学びの多いセミナーとなりました。

今回の学術大会では319名の方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。（東歯大 竜 正大）

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_813.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_813.pdf)



生涯学習公開セミナー質疑応答の様子



特別講演を行う宮地建夫先生

### ●西関東支部学術大会

令和5年1月8日（日）にパシフィコ横浜アネックスホールにおいて、令和4年度（公社）日本補綴歯科学会西関東支部学術大会並びに総会を第21回神奈川県歯科医師会学術大会と共催で、神奈川県歯科大学 星 憲幸教授を大会長として開催いたしました。学術大会では、口演発表13演題、ポスター発表9演題、専門医申請ケースプレゼンテーション8演題が発表され、数多くの先生にご参加をいただきました。また、「原点回帰」ーデジタル技術を活かすには、基礎との融合を今！ーと題して、シンポジウム講演では歯冠補綴治療のために必要な令和5年の最新情報をテーマに大橋 桂先生（神歯大）は「CAD/CAM冠の確認すべき材料学的特性」、峯 篤史先生（大阪大）には「CAD/CAMレジン冠の臨床から得た教訓」と基礎的データを知っているからこそ生きる臨床へのアドバイスをCAD/CAM冠に関してエビデンスベースでの講演をしていただきました。併催いたしました生涯学習公開セミナーでは、「デジタル時代に必要な義歯治療の知識と技術」をテーマとして、新保秀仁先生（鶴見大）は「3Dプリンティング全部床義歯は実用性が高いのか?」、前畑 香先生（西関東支部、神歯大）は

「一般歯科診療所におけるデジタル全部床義歯治療の現状」と基礎的データから臨床応用まで幅広く義歯における最新のデジタル応用について講演していただきました。冬の寒さが身に染みる天候でしたが、歯科補綴学を考える研鑽の場として、さらに久々の対面開催としてさまざまな参加者の交流と討議で盛り上がった一日となりました。（神歯大 川西範繁）

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_855.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_855.pdf)



シンポジウム講演者の表彰



専門医申請ケースプレゼンテーション

### ●東海支部学術大会

令和4年度東海支部学術大会が令和4年10月22日(土)、23日(日)に松本歯科大学歯学部歯科補綴学講座 樋口大輔が大会長として開催されました。新型コロナ第7波の感染拡大で先を見通せない中で、昨年に引き続き、本年度も完全Web開催としてすべてのプログラムをオンライン上にて行いました。一般口演は6題の発表があり、専門医ケースプレゼンテーションは3題となりました。22日に行われたオンラインによる専門医ケースプレゼンテーションでは、非公開でしたがオンサイトと変わらぬ緊張感の中で実施することができました。特別講演では、朝日大学の中本哲自先生に「歯科インプラント治療におけるデジタル化」と題して、デジタル技術の基礎から最新の応用までご講演いただきました。生涯学習公開セミナーでは、葎島弘之先生(松歯大)と古屋純一先生(昭和大)に「歯科訪問診療における補綴歯科治療から摂食嚥下リハビリテーションまで」をテーマにご講演いただきました。東海支部は長野・岐阜・富山にまたがる日本アルプスの広大な山間部を有し、高齢化や過疎化が進む地域も多く、歯科訪問診療や摂食嚥下リハビリテーションのニーズが大きい地域です。参加者の関心も高

く、活発な意見交換もなされ、非常に有意義な講演となりました。今回の学術大会もWeb開催の強みを生かし、北海道から九州まで日本全国から多くの参加者を集めることができました。この2年間は、オンサイトでの実施が叶わず、信州の大自然や秋の味覚を堪能いただく機会を会員の先生方に提供できなかったことは少し悔やまれますが、無事、盛会のうちに終わることができましたことを報告申し上げます。ご協力いただいた先生方、協賛いただいた企業様、ご後援をいただいた団体様に改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。(松歯大 樋口大輔)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_800.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_800.pdf)



生涯学習公開セミナー(右下は樋口大会長)

特別講演の中本先生

### ●関西支部学術大会

令和4年11月12日(土)13日(日)の2日間にわたり、支部長 池邊一典先生(大阪大)および奈良県歯科医師会会長 末瀬一彦先生の両会長のもと、令和4年度日本補綴歯科学会関西支部学術大会が奈良県歯科医師会との共催で開催されました。

今回の学術大会では、奈良県歯科医師会との合同企画として、教育講演を開催し、矢谷博文先生(関西支部)から「歯科接着技術を歯冠補綴臨床に生かす」、末瀬一彦先生(関西支部)から「医療保険に導入されたCAD/CAM冠の有効活用」についてわかりやすく解説いただきました。また、特別講演として、柏木宏介先生(大歯大)から「補綴歯科治療のデジタルワークフローにおけるフェイススキャナーの有用性」、前川賢治先生(大歯大)から「補綴歯科におけるこれまでの取り組みと今後の構想」について、それぞれご講演いただきました。

さらに、「さまざまな欠損形態に対するアプローチを考える(すれ違い咬合への進行を防ぐための補綴アプローチ)」と題した公開症例検討会を開催しました。伏田朱里先生(大阪大)、田代悠一郎先生(大歯大)、片山昇先生(東海支部)にご発表・ご討議いただき

ました。

このほかに、一般口演11題、専門医ケースプレゼンテーション2題の発表がありました。

併催の生涯学習公開セミナーでは、「全部床義歯の咬合採得を失敗しないための7つのポイント」について、松田謙一先生(関西支部)にご講演いただきました。

久しぶりの対面形式の支部学術大会となりましたが、約180名の方々に参加をいただきました。ご参加いただいた先生方ならびに、開催に際し、ご尽力をいただいた奈良県歯科医師会はじめ関係の方々にご心よりお礼申し上げます。(大阪大 権田知也)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_824.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_824.pdf)



公開症例検討会でのディスカッション



教育講演での感謝状贈呈

## ●中国・四国支部学術大会

令和4年度中国・四国支部学術大会を8月27日(土)、28日(日)に香川県高松市かがわ国際会議場においてハイブリッド形式で開催させていただきましたのでご報告致します。

シンポジウムでは「ブラキシズムから歯の喪失を予防する」をテーマに水口 一先生(岡山大)座長のもと、加藤隆史先生(大阪大)、馬場一美先生(昭和大)、大倉一夫先生(徳島大)に講演していただきました。一般口演8題、現地開催の専門医ケースプレゼンテーション12題があり、活発な質疑応答がありました。

併催された生涯学習公開セミナーでは「磁性アタッチメントー症例から学ぶ問題点への対応」と題して皆木省吾先生(岡山大)座長のもと市川哲雄先生(徳島大)、大久保力廣先生(鶴見大)に講演していただきました。地元関係者にとっても大変貴重な公開セ

ミナーとなり合計で272名のご参加をいただきました。さらに、一般市民の方に磁性アタッチメントを通して補綴歯科医療を広く知っていただくために、市民フォーラム(オンデマンド配信)を開催し、300名を超えるご参加をいただきました。

支部長の皆木省吾先生、講師の先生方、当番校の徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野(松香芳三教授)の皆様、後援をいただきました高松市、(公社)香川県歯科医師会、(公社)高松市歯科医師会をはじめ、大会にご理解ご尽力いただきました方々に厚くお礼を申し上げます。

(中国・四国支部 吉本彰夫)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_767.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_767.pdf)



専門医ケースプレゼンテーション



生涯学習公開セミナー会場からの質問



生涯学習公開セミナー会場スクリーン

## ●九州支部学術大会

令和4年11月19日、20日に、長崎大学生命医科学域(歯学系)口腔インプラント学分野教授、澤瀬 隆大会長、一般社団法人長崎県歯科医師会会長、渋谷昌史大会長(共催)ならびに、同講座准教授、黒嶋伸一郎実行委員会のもと、令和4年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会がハイブリッド開催されました(会場はアルカス SASEBO)。開催直前まで完全対面方式を計画していましたが、最終的には新型コロナウイルス感染症拡大防止を鑑みてハイブリッド開催としました。九州5大学からの招待講演と20題のポスター発表に加え、2演題のシンポジウムと1演題の特別講演が行われました。シンポジウムでは、「CAD/CAM コンポジットレジジン冠の臨床的現状と展望」と題して、北海道医療大学の疋田一洋教授と東北大学の江草 宏教授にご講演いただき、特別講演では、長年、本学会と九州支部を牽引していただきました九州歯科大学の鱒見進一先生に、「私と歯科補綴との関わり」と題してご講演をいただくことができました。また、5演題の専門医ケースプレゼンテーション発表に加え、長崎大学の村田比呂司教授には、「義歯と健康」と題して市民フォーラムも無事に開催するこ

とができました。学会終了後には、「全部床義歯の咀嚼機能と吸着のために必要なこと」をテーマに掲げた生涯学習公開セミナーが併催され、東北・北海道支部の佐藤勝史先生には、「下顎無歯顎高度顎堤吸収の特徴と吸着義歯での対処法」と題して、また、日本歯科大学の小出 馨名誉教授には、「全部床義歯の難症例にはこう対応するー良好に咀嚼機能を回復するための要件とはー」と題してご講演をしていただきました。学会開催中は九州5大学の会員の先生方だけでなく、ハイブリッド開催の利点を生かし、九州以外の大学の先生方やご開業の先生方など、多くの先生方にご参加いただく機会を得ることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(長崎大 澤瀬 隆)

プログラム・抄録集

[https://www.hotetsu.com/files/files\\_803.pdf](https://www.hotetsu.com/files/files_803.pdf)



ご講演を終えた疋田教授(左)、江草教授(中)、鱒見名誉教授(右)と澤瀬大会長



生涯学習公開セミナーを終えた佐藤先生(左)と小出名誉教授(右)と澤瀬大会長

## 令和 4 年度認定医・専門医筆記試験

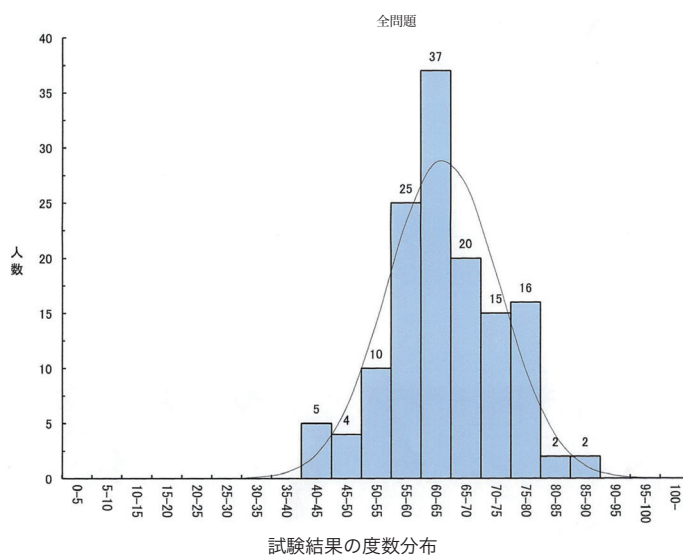
令和 4 年度の認定医・専門医試験はここ数年、新型コロナウイルス感染拡大に伴い令和 2 年度から実施されていた 9 支部に分散した形態での試験実施から久しぶりに対面での実施となりました。2022 年 7 月 15 日（金曜日）15:00～15:50 まで第 131 回学術大会の会場である大阪国際会議場（グランキューブ大阪）会議室 1001-1002（第 3 会場）に 136 名の受験者が集合しました。ここ数年の受験者数の推移は 9 支部分散で行った令和 2 年度が 280 名、令和 3 年度が 157 名であり、予想はしていたものの、分散型より対面の方が少ない受験者数となりました。しかし、減少したといいながら、これだけの人数が一つの会場に集合しての試験は久しぶりであり、緊張するものでしたが、修練医・認定医・専門医制度委員会（以下、制度委員会）のメンバーで受付および試験監督を行い、無事終了できましたことは各方面のご協力があったことです。

ここで試験実施までのロードマップについて少し触れたいと思います。試験を実施するにあたり、毎年 12 月ごろを締め切りとして、試験問題を各支部選出の代議員の皆さまに提出いただきます。今回は、83 名の代議員から 249 問題をいただきましたので提出率はおおよそ 3 割程度です。試験問題が集まると、制度委員会で、9 領域に類型された問題のブラッシュ

アップをまず第 1 次ブラッシュアップ担当委員が行い、ブループリントに従い各領域の採択候補問題と予備問題を抽出します。それを受けて 1 次ブラッシュアップ担当とは別の幹事委員が、2 次ブラッシュアップを行い、最終採択問題の案を抽出します。そして更に、制度委員会で 3 次ブラッシュアップを行い、最終問題を確定します。この 3 段階のブラッシュアップを経て実施するのは、認定医・専門医を目指す方の基礎的知識を適切に評価する目的があることにほかならないからです。試験は妥当でなければならず、その妥当性は問題の正答率と識別係数で評価します。今回の試験では度数分布は正規性があり、平均点は 63.7 点（標準偏差 9.4）と昨年同様の結果であり、合格率は 68% と概ね妥当な試験であったと評価しています。

令和 5 年度は 2023 年 5 月 19 日（金）14:50～15:40 第 132 回学術大会時に実施されます。制度委員会ではすでに令和 5 年度の試験に向け新たな問題のブラッシュアップを実施しているところです。引き続き補綴歯科学会の認定医・専門医制度の充実に会員の皆さまのご理解とお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長  
河相安彦）



## 第7回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'22」の報告

去る2022年10月30日に、九州大学医学部百年講堂にて、第7回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'22」を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染状況が6月にはやや落ち着きを見せていましたが、7月に再び爆発的な感染が始まり、8月19日には26万943人の感染が確認され、過去最多を更新しました(第8波)。そのため、当初は現地開催する予定でしたが、LIVE配信とのハイブリッド開催に変更となりました。当日は、現地参加とLIVE配信視聴者と合わせ425名もの参加者を得ることができました。

今回は、補綴治療で登場するケースは頻繁ですが、これまで「語られてこなかったポンティック」にフォーカスを当て、テーマを「そろそろポンティックについて語らないか?」としました。セッション1では、ポンティック概論(分類、歴史)と題し、座長に澤瀬 隆先生と本多正明先生をお迎えし、本多先生から「咬合支持から歯列弓の保全を考察」について、新谷明一先生から「ポンティックの分類、歴史、材料、治療計画」について、さらに熱田 生先生からは「ポンティック周囲における軟組織構造を基礎研究から考える」についてご講演いただきました。セッション2では、接着時代のリテーナー(支台装置)最前線と題し、座長に小峰 太先生と川畑正樹先生をお迎えし、高岡亮太先生から「接着ブリッジの文献的考察ならびにワークフローの再考」について、野村勇太先生から「前歯部欠損における接着ブリッジの有用性」につい

てご講演いただきました。セッション3では、欠損顎堤の保存と増大、スカルプティングから最終補綴への移行と題し、座長に藤澤正紀先生と西 耕作先生をお迎えし、日高豊彦先生から「ポンティック長期予後の要素と変形した欠損部顎堤の解決方法」について、佐藤洋平先生から「スカルプティングから最終補綴への移行」についてご講演いただきました。セッション4では、ポンティックフォーカス臨床と題し、座長に近藤尚知先生と土屋賢司先生をお迎えし、小濱忠一先生と上林 健先生から「ポンティックに対するチェアサイドーラボサイドワーク」について、鈴木真名先生から「審美修復治療のための欠損歯槽堤のマネジメント」についてご講演いただきました。

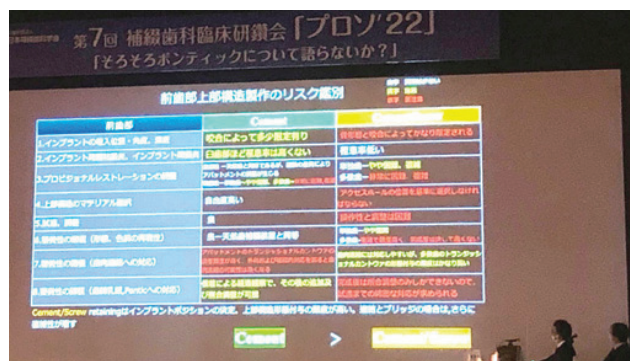
今回のプロソでは、第131回学術大会にて、日本補綴歯科学会と協定を締結した日本歯科臨床学会(SJCD)の両学会から、総勢10名の先生方にご講演いただきました。丸一日「ポンティック」を再認識し大いに研鑽を積むことができたのではないのでしょうか。さらに、明日からの臨床にこの研鑽会の内容を生かしていただけたのではと思っております。

最後にこの場をお借りして本研鑽会が盛会裏に終わることができましたことをご報告いたすとともに、参加者ならびに開催にあたりご尽力いただきました実行委員会ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

(大会長 澤瀬 隆, 実行委員長 吉田圭一)



セッション1 ディスカッション



セッション4 小濱先生, 上林先生

## 令和 4 年度専門医研修会が開催されました

令和 4 年度の専門医研修会は、昨年度に引き続き修練医・認定医・専門医制度委員会（以下、制度委員会）が所掌し、各支部から研修会のテーマに沿った講師を推薦いただきオンラインで 5 回実施されました。

第 1 回は 2022 年 5 月 8 日に「一般社団法人 日本歯科専門医機構の認証による新専門医制度に向けて」と題し、座長を馬場一美理事長にお務めいただき、補綴歯科専門医（仮称）の機構認証に関する進捗と、今までいただいた質問にお答えする形式で修練医・認定医・専門医制度委員会から河相安彦委員長と修練医・認定医・専門医認定委員会から木本克彦委員長から現状と今後の見通しについて説明がなされました。参加された皆さまからは多くのご質問をいただき、それをもとにホームページに QA 集を作成し、最新の情報に更新につながりました。

第 2 回は 2022 年 6 月 19 日に「保険収載から 8 年経過した CAD/CAM 冠の再評価」をテーマに座長を新谷明一先生（東京支部）と小泉寛恭先生（制度委員会）にお務めいただきました。収載 8 年経過した CAD/CAM 冠について、田邊憲昌先生（東北・北海道支部）から咬合力と支台歯の条件から CAD/CAM 冠の適応について、峯 篤史先生（関西支部）には臨床研究の成果から CAD/CAM 冠を再考していただきました。非常に関心の高い内容であり、参加者との双方向のディスカッションが展開されました。

第 3 回は 2022 年 9 月 11 日に「上顎前歯部の治療オプション」をテーマに座長を高岡亮太先生（関西支部）と中本哲自先生（制度委員会）にお務めいただきました。上田一彦先生（関東支部）からは材質、形状に基づきインプラント上部構造について整理していただき、田中秀樹先生（九州支部）には、歯周組織の調和と審美に配慮した補綴治療について豊富な臨床例を

ご提示いただきました。

第 4 回は 2022 年 11 月 27 日に「ノンメタルクラスプデンチャー」をテーマに座長を岡本和彦先生（東関東支部）と隅田由香先生（制度委員会）にお務めいただきました。伊藤誠康先生（東関東支部）から最近のノンメタルクラスプデンチャーの研究動向の文献展望を供覧いただき、谷田部 優先生（東京支部）にノンメタルクラスプデンチャーの豊富な臨床例と勘所などについてご提示いただきました。

第 5 回は 2023 年 1 月 22 日に「マクロとミクロの視点で捉える生体に調和した咬合」をテーマに座長を鈴木善貴先生（中国・四国支部）と関根秀志先生（制度委員会）にお務めいただきました。佐久間重光先生（東海支部）からマクロの観点でオーラルリハビリテーションから生体に調和した咬合について、田中順子先生（関西支部）からミクロの観点で機能的に最適な臼歯部の咬合接触について臨床例を通じてご提示いただきました。

研修会のアンケートから「オンライン形式の研修会について」は 90% 以上の方が好ましいと回答しており、多くの参加者が今後もこの形式の継続を希望しておりました。参加者の多くは一般歯科医院の開設者・勤務者であり、日曜日の開催を望んでいることもわかりました。講演内容はすべての回で「満足」「ほぼ満足」を合わせて 90% を超えていることに安堵しています。

令和 5 年度もオンラインで、同様な時期に行われる予定です。専門医の先生には今以上の知識や技能の向上に、また、専門医を目指す先生には補綴に興味が増すように、臨床と直結して役立つコンテンツを検討します。令和 5 年度も、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長  
河相安彦）





## 受賞報告

### ○二川浩樹先生が令和4年度中国地方発明表彰文部科学大臣賞を受賞

二川浩樹先生（広島大）が令和4年度中国地方発明表彰の最高の文部科学大臣賞を、「持続型抗菌・抗ウイルス成分の開発（特許第48484号）」の発明により受賞されました。誠にありがとうございます。

＜受賞理由＞

本発明は、従来よりも高い殺菌性能やウイルスの不活性化性能を持つことに加え、その構造上の特徴により長期の抗菌持続性を有し、さらに高い安全性を持ち合わせた組成物に関するものです。本発明の組成物は、4級アンモニウム塩構造部分とシラン構造部分とから構成されています。4級アンモニウム塩構造は、歯科分野等で抗菌・抗ウイルス剤として実績のある骨格をベースにしており、幅広い菌やウイルスに作用することが確認されています。また、シラン構造にエトキシ基を採用することで、安全性を高め、かつこの部分が基材と化学結合し、有効成分が基材表面に留まり続けるため、長期に効果を発揮し続けることが可能となり

ました。

本発明を用いた抗菌・抗ウイルス製品が普及することで、身の回りのさまざまな物品に持続的な抗菌・抗ウイルス性能を付与することが可能となり、消費者の安心・安全な生活環境づくりに貢献することが期待できます。

（広報委員会）



二川先生に贈られた受賞盾（左）および賞状

### ○佐々木啓一先生が令和4年度日本歯科医学会会長賞を受賞

日本歯科医学会の最高顕彰である令和4年度日本歯科医学会会長賞に、本会推薦により佐々木啓一先生（東北大）が研究部門で受賞されました。2月24日の日本歯科医学会第109回評議員会で表彰式が執り行われました。誠にありがとうございます。

＜受賞理由＞

佐々木啓一先生は、昭和56年に東北大学歯学部を卒業後、歯科補綴学に立脚した歯科医学、歯科医療の幅広い領域において、先進的な研究に積極的に取り組まれてきました。日本歯科医学会においても、常任理事、評議員、各種委員会委員等を歴任され、会務の運営に尽力されました。

先生の業績の最大の特徴は、我が国を代表する研究大学である東北大学の利を活かし、材料学、ナノ加工学、情報科学などの研究者と連携した異分野融合研究をいち早く展開し、さらに「実学としての歯科医学」を具現化するため、すなわちこれら研究成果の社会還元、社会実装を目指し、数多くの研究シーズを産学連

携等の社会との共創のもと、発展させたことにあります。先生は、積極性と情熱を持って、自ら学び、経済産業省、AMED、PMDAと交渉を重ねることで幾多の困難を打開し、今日では、歯科のみならず医科や医工学領域からも産学連携、臨床研究、医師主導型治験のエキスパートとして認知されています。また、異分野融合、産学連携に留まらず、幅広く歯科医学の普遍性、社会性に着目した研究を遂行されています。

（広報委員会）



オンライン形式で開催された日本歯科医学会第109回評議員会において佐々木啓一先生（左）より受賞を受ける佐々木先生

## インド補綴歯科学会50周年記念学術大会参加報告

2022年11月10-13日、インド・ニューデリーにてインド補綴学会 (IPS) 50周年記念学術大会 (大会長 Mahesh Verma 先生) が開催されました。JPS から、渉外委員会の金澤 学先生 (医歯大) と私、神野洋平 (九州大) が参加しました。

インド国内の各支部を回ってきた聖火がトーチに点火されるという演出から始まった学術大会は、3,000人を超える参加者で、終始どの場面でもその勢いに圧倒されました。開会式では、理事長の V Rangarajan 先生が補綴学がいかに素晴らしく勉強すべき学問であるかを熱弁され、それを聞く若い先生や学生の真剣な眼差しが非常に印象的でした。

会期中に、2007年に締結された JPS-IPS 国際交流協定の締結 15周年を祝賀するセレモニーが行われました。IPS 理事の先生方とともに、我々もステージに登壇し、非常に大きな拍手でお祝いをしていただきました。多くの IPS の先生方が、それぞれ JPS 歴代理事長のみならず多くの JPS の先生方の名前をあげていました。これまでの交流が非常に心の通ったものであったことを感じる事ができました。コロナパンデミックはインド (海外?) では完全に収束しており、

インドのみならず各国との交流再開が急務の検討課題であるように思います。さらに、これからの15年の交流を考えると、補綴学に真摯に向き合ってる IPS の若い先生方と JPS の若い先生方をいかにうまく繋げていくかという環境作りについても考えていく必要があると感じました。

今回、キーノートスピーカーとして講演を行うという光栄なミッションをいただきました。金澤 学先生はデジタル総義歯の現状と未来、私はオッセオインテグレーション獲得のためのキーファクターについてそれぞれ1時間の講演を行いました。講演後のディスカッションはステージを降りた後も続き、非常にライブ感に溢れるセッションとなりました。コロナ前は当たり前であった海外学会の醍醐味を久しぶりに思い出すことができました。

私自身にとって、2年半ぶりの海外であり戸惑うことも多かったです。非常に刺激的で今後に繋がる学術大会参加となりました。このような機会を与えてくださった JPS に心より感謝申し上げます。

(渉外委員会 神野洋平)



JPS-IPS 国際交流協定締結 15周年祝賀セレモニー



講演後の金澤 学先生と筆者